



2011年4月28日掲載

## アジアの経済成長・次の段階

---

アヌープ・シン

アジアの広い地域で経済回復が進んでおり、同地域は引き続き世界の経済回復の強化の原動力となっています。しかし、日本での地震や津波をはじめとする、世界で起こっている厳しくつらい最近の出来事は、経済環境、そして実は我々が生活する環境がいかに脆いかを、思い出させるものとなりました。

私は、このようなことを深く考えながら、2011年4月のアジア太平洋地域経済見通しの発表のために香港に滞在しています。見通しは決して悲観的ではありませんが、アジアの成長の次の段階へのアプローチを考えるべき時が来たと言えるでしょう。

### 経済見通し

2010年のアジアは、好調な輸出と内需を背景に平均8.3%の成長を遂げました。ハイテク製品をはじめとするアジアの輸出は、これまで以上に活発な国際投資に、そして国内消費や投資は、雇用の改善、潤沢な融資、及び緩和的なマクロ経済政策に支えられてきました。

2011年・2012年については、両年ともに平均で7%の成長率が予測されるなど、力強い成長が続くと考えられます（世界成長率は4.5%）。中国とインドが引き続き先導役となり、両国の成長が、ますますアジアの他の国々のプラスとなるでしょう。日本の災害の経済への影響は、事態が変化していることから依然として不透明です。しかし、早急かつ断固とした政策対応により、災害初期の混乱は抑制されました。生産や流通網すなわちサプライチェーンの混乱が長期化しなければ、日本の災害の影響は今後も限られたものになると予測されます。

### 短期的リスクと政策の選択

アジア経済見通しのリスクは、半年前に行った前回の評価と比較し、よりバランスの取れたものとなっています。これは、主に先進国の金融リスクが軽減していることを反映していると言えます。

しかし、一方で新たな下振れリスクも浮上してきました。

- 特に中東での混乱を背景に、原油価格が更に高騰するリスクがあります。これは、世界成長に混乱をきたしインフレに拍車をかける可能性があります。

---

この iMFdirect は <http://blog-imfdirect.imf.org/2011/04/28/asia's-next-economic-growth-phase> で閲覧可能。

iMFdirect ブログホームページ: <http://blog-imfdirect.imf.org/>

- 多くのアジアの国や地域では、消費者物価指数や資産価格の双方の面での景気過熱のリスクもあります。

このような中、数ヶ月前と比較し、アジアにおけるマクロ経済政策の引き締めが必要さが、より差し迫ったものとなっています。必要とされる引き締めの度合いが、国ごとに異なっているのは言うまでもありません。既に金利の引き上げと刺激策の解消に着手している国もあります。しかし、更なる措置が必要です。例えば、中国、韓国、そしてインドなど、一部のアジアの国や地域の実質政策金利は、依然としてマイナスになっています。また、為替レートの上昇は、金融情勢の総体的な引き締めにつながることから、金利の引き上げによる調整の必要性が減るなど、景気過熱圧力の主な防衛手段としての機能を果たすことが出来ます。政策担当者の中からは、引き締めにより変動的な資本流入が発生すると懸念する声があがることもありますが、実際このような資本の流入はここ数ヶ月で落ち着きを見せており、引き締めが一段と容易になっているのです。

## 次の段階

より長期的には、アジアの強固かつ持続的成長の土台の強化の実現に向けた、二つの優先事項があります。

第一に、世界的不均衡が依然として存在していますが、これは危機前の特徴であった歪みの多くが変わることなく残っていることを示しています。これらの歪みの是正にターゲットを絞った政策を実行することで、世界成長の見通しの持続可能性が強化されるでしょう。アジアでは、これはソーシャル・セーフティ・ネットの拡大やインフラ投資の促進など、内需拡大政策を推し進めることを意味します。

第二に、社会的側面での取り組みが上げられます。アジアの労働市場の状況は総じて世界の他地域より良好だと言えますが、一部の国の慢性化した貧困や、著しい不平等、若者の高失業率などのような問題には、早急な対策が求められます。これまで以上に、全ての人々のプラスになるような包括的な成長を促進することで、成長がより持続的になると期待されます。